

あとがき

理学博士 三木寿子：東京女子高等師範学校理科卒（1947）

この『保井コノ資料目録』はお茶の水女子大学ジェンダー研究センターの依頼でまとめたものであるが、私が女高師に在学したのは1943～1947年の戦時中から戦後にかけての混乱期であって、まともな授業があったのは1943年度だけで、その後は造兵廠や農村への勤労動員と食糧休暇で殆ど授業は受けていない。そういうわけで、女高師時代の保井先生との係わりは、わずかに行われた授業と、東十条の陸軍造兵廠への先生の引率の時だけで、非常に少ない。本来ならばこの頃の先生をよく知る方に執筆していただければよいのであるが、当時の助手であった風間氏はすでにご高齢であり、他の親しかった方々の多くも鬼籍に入られてしまった。もっと早い時期に先生の伝記が纏められていたらと残念でたまらない。

京都大学卒業後私は大学院に進学し、学問研究の道を選んだので、年一回の植物学会大会でお目にかかることが多くなり、侍従武官などと悪口を言われながら、行動を伴にすることが多くなった。この間に研究上のゆきずまりや、疑問があつて、先生に質問したことがあつたが、「あなたは新家先生の弟子だから」といって、何も示唆して下さらなかった。戸惑いもしたが、学者の世界とはそういうものであつたのであろう。その後、私は関西から関東へ移住し、東京大学植物教室の研究生として5年間をすごした。丁度この頃先生は病の床に臥され、私は足場のよさもあつて、時々お見舞いするようになった。科学雑誌『自然』の編集長岡部昭彦氏から「保井先生もご高齢だし、病気にもなられたので、今の内に伝記のようなものを書いて頂けないだろうか」という話があつた。先生に申し上げると、もう少し元気になってからとの事。私は1955年に京都大学で行つた先生を囲む座談会の話をもとめて、生物学史研究会の発行する生物学史ノートにそれを投稿して印刷してしたので、これをもとにして先生の伝記を書いてお目につけた。先生は「このままではなんだから私が書き直す」と言われて出たのが『自然』に掲載された「自叙伝：初の女性博士となるまで」（1963）である。その後ジェンダー研究センターの依頼で「保井コノ博士の研究業績」（1987）を記した。1998年には保井先生の研究と生涯についてのビデオ企画制作に関わつた。そのビデオ収録にあたっては、インタビューに答えるという形であつたので、意を尽くせなかつたものの、保井先生についての話をした。2001年四国出身の偉人達の業績を自社のPR雑誌に連載していた四国電力株式会社の依頼で『ライト＆ライフ』に「日本初の女性理学博士保井コノ」を執筆した。その後、四国電力のご好意で三本松の実家跡や保井家代々の墓地、三本松小学校の校庭にある保井の胸像を訪ねた。この時郷土史家の島田治氏や桑島正道氏にお会い出来て有意義であつた。

保井先生の資料や遺品は亡くなられた後、お宅に残っていたものと以前に研究室に残っていたものである。保井が病に倒れた後、大学側から、彼女の名誉教授室を整理するようにと伝えてきたので、家政研の教授だった今井百里江子さん（元大槻虎雄植物学教授の助手）と私の二人で片づけに行つた。先生の遺品の主なものは今井氏が保管してくれることになった。その後、行方不明になっていた幻灯機（スライド映写機）や顕微鏡などがごみ置き場に捨ててあつたのを、動物学教室専任講師の団仁子先生が大変なものが捨ててあると驚いて拾って下さったものが現在残っている器物である。もっと早い時期にもっと多くの資料を集めて先生の全貌をはっきりさせたかった。先生の業績を整理して思うことは、先生の視野の広さと見識の深さである。ただただ頭の下がるばかりである。先生は英才である上に、努力と精進の人である。

『保井コノ資料目録』とその利用について

1. 本目録は保井コノに関する資料を収集整理し、学内外の研究者の利用に供することを目的としたものである。
2. 本資料はお茶の水女子大学ジェンダー研究センターに保管する。
3. 本資料の利用を希望するものはジェンダー研究センターにあらかじめ申し出て、利用許可を得るものとする。
4. 本資料の利用は閲覧を原則とし、貸出は行わない。
5. 閲覧を終了した資料は必ず返却の確認を受けなければならない。

2004 (平成 16) 年 3 月 30 日

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

執 筆 三木寿子 Hisako MIKI-Hirosige 理学博士 (1962 年)

元神奈川歯科大学教授・お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員
東京女子高等師範学校理科卒業 1947 年卒業
同志社女子中等高等学校教諭 1947-49 年
京都大学理学部植物学科 1952 年卒業 同大学院 1952-62 年
東京大学理学部植物学科研究生 1962-67 年
ニューヨーク州立大学バッファロー校に留学 1967-68 年
神奈川歯科大学に勤務 1964-93 年
Sexual Plant Reproduction (ドイツ Springer 社) の編集委員 1988-2003 年
日本花粉学会会長 (2 期) 1993-96 年

- 【主な論文】 1982 Coated Vesicles and Cell Plate Formation in the Microspore Mother Cell. Sumio Nakamura & Hisako Miki-Hirosige *Ultrastructural Research* 80: 302-311
1987 Secretions from the Pistil of *Lilium longiflorum*. Hisako Miki-Hirosige, IHS Hoek, and S. Nakamura *Amer. J. Bot.* 74(11): 1709-1715
2004 Changes of Protein Profiles during Pollen Development in *Lilium longiflorum*. Hisako Miki-Hirosige, Y. Yamanaka, S. Nakamura, S. Kurata, H. Hirano *Sex. Plant Reprod.* 16: 209-214

資料整理 松田久子 Hisako MATSUDA

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員
津田塾専門学校 (現津田塾大学) 物理化学科 1947 年卒業
【研究テーマ】 女性科学者の伝記・業績などの調査研究。1982 年から湯浅年子資料研究に参加。

編 集 舘かおる お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授
小山直子 同大学 COE「ジェンダー研究のフロンティア」客員研究員・ジェンダー研究センター研究協力員

2004 年 3 月 30 日発行

編集・発行 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845
E-mail igs@cc.ocha.ac.jp
URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 能登印刷株式会社

〒101-0024 千代田区神田和泉町 1 丁目 6 番地 2

**CATALOG
OF
KONO YASUI'S (1880-1971)
ARCHIVES**

**INSTITUTE FOR GENDER STUDIES
OCHANOMIZU UNIVERSITY
1-1, OTSUKA 2-CHOME, BUNKYO-KU
TOKYO 112-8610 JAPAN**